

地域活動実施報告書 (A)

令和 5年 12月 18日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 伊藤巨志 (教授・人間生活学部・子ども学科) 寺山公園子育て交流施設 「い～てらす」 株式会社 BSN キッズプロジェクト
--------------------	---

活動テーマ	「遊育 (ゆういく)」推進のための親子運動遊び
活動の目的	運動遊びをとおして知覚 (視覚, 聴覚, 筋運動感覚) を使い, 予測や意志決定, 動きの記憶を基に道具の有無による多様な運動を行い, 運動コントロール能力である調整力を養う経験をする。親子で「できる」「できた」体験を多く行い, 運動有能感を実感できるイベントを実施する。特に, 保護者には子どもと一緒に動き, 観察することで, 家庭での遊び方や成長に合わせた難易度などの設定方法や説明を聞きながら実践する。家庭において継続的に実施することで運動能力の向上を目指す。
活動の内容	<p>新潟市東区寺山公園交流施設「い～てらす」とBSNキッズプロジェクトの全面協力の下、遊育ワークショップを企画・実施いたしました。</p> <p>BSNラジオ「立石勇生のSUNNY SIDE」番組内での広報, BSNのHP, い～てらすのHP, 新潟市東区区民だより (11月5日号) による広報活動を行いました。</p> <p>12月2日に5歳以上の未就学幼児17組、12月9日に小学校低学年7組の親子の参加があり, BSNキャラクター「ハレッタ」との写真撮影や触れ合いタイムを設定後に実施したこともあり、柔らかい雰囲気から和気藹々と進みました。</p> <p>「モノや道具を使わない遊び」として、片足立ちでバランスを取ったり、腕支持運動 (はいはい、熊歩き、カエル跳び、兎跳びなど)、両足・片足ジャンプをしたりすることで、身体の調整力を養う基本運動を親子で実践しました。「はいはい」は子どもの方が大人よりも上手にできる事を観察することで、大人自身が忘れていた感覚を確認することができたのではないかと考えています。</p> <p>「モノや道具を使う遊び」 (家庭や100均で買える身近なものを使って) は、新聞紙を振ったり回したりして新聞紙の動きを身体で表現する遊びや、ジャンケンをして負けたら半分に折る事を繰り返し新聞紙の上でバランスをとったり、新聞紙を丸めて親子でキャッチボールをしたりなどバランスや投げ動作を行いました。小学校低学年の参加者には紙鉄砲を作成して、大きな音を出すための動作を練習することでボール投げに役立つことを実践しました。また、風船を手や脚、頭で落とさないようにコントロールしたり、親子で対決したりして風船のフワフワ感を楽しみました。養生テープを風船に巻くだけで反発力が強くなり高度な遊びへと進化することを経験しました。</p>

地域活動実施報告書 (A)

令和6年1月21日

メンバー (所属)) ○=代表者	○ Victor Gorshkov 国際経済学部国際経済学科 准教授 Tu Li-hsin 国際経済学部国際経済学科 講師 川野 陽子 NPO 法人ベジプロジェクトジャパン 代表理事
-------------------------	---

活動テーマ

「新潟県におけるプラントベースフード市場開拓の可能性を考える」産官学交流会の開催

活動の目的

- ① 持続可能な取り組みの一つとして、プラントベースフード (PBF) への理解促進
- ② PBF を活用した新潟県の地域活性化の促進
- ③ 新潟県における PBF 市場開拓の可能性および課題について意見交換できる場の提供
- ④ 多様化しているライフスタイル (ベジタリアン、ヴィーガン、フレキシタリアンなど) への理解促進

活動の内容

2023年11月21日(火)に、「新潟県におけるプラントベースフード市場の開拓の可能性を考える」の交流会を開催した。本イベントへの参加周知として、右図のようなチラシ600部を作成し、新潟県の全ての自治体、関心のある県内企業および県内大学の地域貢献センター等に郵便またはメール等で案内した。その結果、県内外から約40名の方々が参加し、米をはじめとする農作物が豊かな新潟県におけるプラントベース市場の可能性や課題について積極的な意見交換が行われた。



交流会の冒頭では、国際経済学部 Victor Gorshkov 准教授による挨拶および趣旨説明があり、登壇者の簡単な紹介が行われた。

第一講演「プラントベースフードへの理解を深める」(発表者: NPO 法人プロジェクトジャパン代表理事川野陽子氏)では、よく混同されがちなヴィーガン・ベジタリアン・ハラール・グルテンフリーなどの違いや、プラントベースとは何か、当法人の取り組み(認証事業や自治体・企業との連携、大学の食堂へのベジメニュー導入サポートなど)についての紹介が行われた。



第二講演「ベジタリアンの視点で見る日本(新潟県)も食の多様性」(発表者: 国際経済学部 Tu Li-hsin 講師)では、新潟の生活で感じる食の選択肢の少なさ、そのような中でもプラントベースやベジタリアン食材を見つけて楽しむ方法についてなど写真を交えて紹介された。





第三講演「地元企業のプラントベースフード取り組み事例の紹介」（発表者：株式会社 JR 東日本クロスステーションフーズカンパニー十日町すこやかファクトリー梅澤嘉朗氏）では、同社のプラントベースへの考えや取り組み事例、実際に感じている課題や今後の可能性について示された。



第四講演「新潟県におけるプラントベースフード市場への参入の可能性」（発表者：国際経済学部 Victor Gorshkov ゼミナール学生有志）では、課外活動の一環として行われてきた一般消費者・企業向けのアンケート調査の概要が紹介された。本調査からは、PBF 市場の開拓は一般消費者・企業を含む社会全体にとって肯定的な効果をもたらし、PBF は人々の健康状態・生活習慣を改善するのに貢献し、

異なるライフスタイルを持つ消費者の食に関する選択肢を豊富にすることで、食事の満足度につながる事が明らかとなった。加えて、新潟県の企業が PBF 市場に参入することは、生産地としての新潟県の比較優位を活かしながら、新しい食のニーズに対応した国内外の顧客基盤の構築に繋がる可能性がある」と報告された。

交流会の後半では、参加者同士の交流会およびプラントベース商品の試食会が開催された。そこでは、レトルトのリゾットやスープ、プロテイン飲料、デザートやスナック菓子、講演された十日町すこやかファクトリーの米粉のクッキーなど、幅広いヴィーガン・プラントベースの商品が試食提供された。



交流会後に参加者全員向けに Google Forms にてアンケート（Likert scale 1-5）が行われ、有効回答のうち（N=31）「本日のイベントを通じてプラントベースフードに対する理解が深まった」と答えた回答者は 83.8%、「本日にイベントは、ご自身の事業や研究に活かせそうでしょうか」と答えた回答者は 54.9%、「本日のイベントは役に立ちましたか」と答えた回答者は 87.1%であった（※ とてもそう思う（5）、そう思う（4）の肯定的な回答を合わせた割合）。

【広報】

本交流会は以下のメディアで取り上げられた。全ての関連団体に謝意を表したい。

新潟県立大学公式 HP https://www.unii.ac.jp/?post_type=event&p=30076&preview=true

新潟県立大学公式 Facebook

地域創生プラットフォーム SDGs 新潟 <https://sdgs-niigata.net/notice/information/event/7259/>

NPO 法人ベジプロジェクトジャパン公式 HP https://vegeproject.org/unp_report_231121/

NPO 法人ベジプロジェクトジャパン公式 Facebook

NPO 法人ベジプロジェクトジャパン公式 Instagram

NPO 法人ベジプロジェクトジャパン ニュースレター

Victor Gorshkov ゼミナール ゼミ紹介 Instagram

※ 上記の媒体の他に、県内企業・自治体・大学等に 600 部のチラシの送付と配布を行なった。